

令和4年10月12日

文化審議会の答申（国宝・重要文化財（建造物）の指定）

文化審議会（会長 佐藤 信）は、令和4年10月12日（水）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、1件の建造物を国宝に新規に指定し、9件の建造物を重要文化財に新規に指定することを文部科学大臣に答申しました。

この結果、官報告示を経て、国宝・重要文化財（建造物）は、2,557件、5,373棟（うち国宝230件、294棟を含む。）となる予定です。

◎今回の答申における主なもの

【国宝】 勝興寺 2棟 富山県高岡市

高岡市伏木に位置する浄土真宗寺院。寛政7年（1795）建立の本堂は破格の規模を持ち、17世紀中期建立の大広間は真宗寺院対面所の発展過程をよく示す。本堂と対面所を完備した、本山に準じる真宗寺院として屈指の規模、形式を誇る。

【重要文化財】 角長（加納家住宅） 和歌山県有田郡湯浅町

湯浅町湯浅重要伝統的建造物群保存地区に位置する醸造家の醤油醸造施設群と住宅。敷地には、幕末から明治にかけて建設された、伝統的な醤油醸造施設がそのまま残り、かつ現役の醸造施設群として稼働している貴重な事例。

【国宝 新指定の部】

① 真宗王国越中を象徴する大型寺院の本堂と広間（近世以前／寺院）

勝興寺 2棟

本堂、大広間及び式台

所在地：富山県高岡市

所有者：宗教法人勝興寺

勝興寺は富山県高岡市伏木に所在する浄土真宗寺院で、富山湾を望む古代越中国府跡と伝わる台地上に境内を構える。

本堂は、寛政7年（1795）の建立で、近世の大型真宗本堂として屈指の規模を誇り、江戸時代後期を代表する寺院本堂の一つである。大広間は、17世紀中期の建立で、浄土真宗の対面所の初期の形式から、式台玄関を付し、入側を取り込んで発展した過程をよく示す。本堂、対面所を完備した、本山に準じる寺院として破格の規模、形式を持ち、全国的にみても大型真宗寺院の典型となる。

また、我が国の社会に大きな影響を及ぼした浄土真宗が、畿内から北陸へ教線を拡大する中で、地域の拠点となった宗教施設として文化史的意義が深い。



提供：高岡市教育委員会

【重要文化財 新指定の部】

① 日本一の高さを誇る煉瓦造の現役灯台 (近代／産業・交通・土木)

尻屋崎灯台 1基

所在地：青森県下北郡東通村

所有者：国（海上保安庁）

青森県の下北半島の北東端、尻屋崎に位置する。北は津軽海峡、東は太平洋を望む絶景の地に建つ洋式灯台。太平洋側に建設された初期の煉瓦造灯台の一つで、東北地方初の洋式灯台である。明治9年の建設で、設計指導は、我が国の数多くの洋式灯台を設計した英国人技師、リチャード・ヘンリー・ブラントンである。ブラントンが日本で最後に手がけた灯台の一つで、同人による灯台の集大成といえる。壁を内外で二重にした二重円筒形式で、高さ32.8メートルと現役の煉瓦造の灯台では日本一の高さを誇る。また、霧信号が設置された最初の灯台であることも希少である。



提供：東通村教育委員会

○指定基準＝技術的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの

② 材料、工法を吟味した山林王による豪華な近代和風の邸宅 (近代／住居)

佐藤家住宅 5棟

主屋、文庫蔵、味噌蔵、
米蔵及び検査所、大工小屋

所在地：秋田県大仙市

所有者：個人

秋田県の大仙市、出羽丘陵の山裾に位置する。佐藤家は江戸時代から農家、林業を営み、代々村役を務めた旧家である。佐藤家住宅は明治29年の陸羽地震の被災後、



提供：大仙市

約10年をかけて復興した。主屋は、座敷棟、台所棟、帳場棟等を用途ごとに別棟でつくり、豪雪地帯にありながら廊下で中庭を囲む構成とする。トラスと金具を多用した小屋組により、柱の少ない大空間を、極めて高い天井高で実現する等、近代和風住宅の特色をよく示す。また、紫檀・鉄刀木・黒柿等、銘木をふんだんに使用した座敷等に贅をつくし、高い大工技術を駆使して繊細な意匠を持つ接客空間を造りだした。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの

③ 和風に洋風を取り入れた国内最古級の擬洋風住宅 (近代／住居)

富岡家住宅 2棟

主屋、書院

所在地：山梨県甲府市

所有者：個人

富岡家住宅は、甲府市の重要文化財・甲斐善光寺の真北、愛宕山の東麓を流れる高倉川の扇状地の要の位置に所在する。山梨県の藤村紫朗県令のもと、参事として県の勸業政策を推進した富岡敬明の本邸である。主屋は、明治8年頃の



撮影：麓和善

建築で、2階正面をベランダとし、アー

チ付のガラス戸を建て、饅頭形の柱頭飾りの円柱を立てる等、典型的な擬洋風の意匠を持つ。国内最古級の擬洋風住宅であり、藤村治世における洋風建築推進の住宅版と考えられ、歴史的に重要である。明治26年頃建築の書院は書院造の構えで、高い天井高等に近代和風の特徴が認められる。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

④ 久屋大通公園に聳える名古屋戦後復興のシンボル (近代／産業・交通・土木)

名古屋テレビ塔 1基

所在地：愛知県名古屋市

所有者：名古屋テレビ塔株式会社

名古屋市の久屋大通公園にある電波塔。昭和29年の竣工、開業で、高さ178.7メートルは、建設当時日本一の高さを誇った自立式鉄塔である。地上90メートルに展望台を設ける。通天閣や東京タワーの設計で著名な内藤多仲が最初に手がけたテレビ塔で、タワー建築の歴史上、価値が高い。当時一流の技術陣を擁して、耐風に関する実験や計算が行われ、また、わが国初のテレビ放送用集約電波鉄塔として技術的な価値も評価できる。名古屋の戦後復興のシンボルといえ、近現代都市整備のメルクマールとなった。



提供：文化庁

○指定基準＝技術的に優秀なもの、歴史的価値の高いもの

⑤ 近江商人ゆかりの五個荘金堂を代表する近江商人の本宅（近代／住居）

とのむらけじゆうたく

外村家住宅 10棟

おもや ようしつ しんざしき ゆどの ぶんこぐら
 主屋、洋室、新座敷、湯殿、文庫蔵、
 しんぐら どうぐぐら にわぐら つけもの べ や まえぐら
 新蔵、道具蔵、庭蔵、漬物部屋、前蔵

所在地：滋賀県 東 近江市

所有者：外市株式会社

外村家住宅は、重要伝統的建造物群保存地区・東近江市五個荘金堂内、重要文化財・弘誓寺の東向かいに位置する。主屋は明治前期の建築で、堅実なつくりながら、2階に座敷を配する等、近代的な展開をみせる。



新座敷 ザシキからナカノマをみる 提供：東近江市

新座敷は昭和9年の建築で、京都の三上吉兵衛の手になる続き間座敷と茶室からなり、良材を使用した上質な接客空間を持つ。近世後期に定型化した近江商人本宅の形式を引き継ぎつつ、昭和前期に洋室や新座敷を増築した質の高い近代和風住宅として評価できる。江戸時代末からの歴史を持つ宅地と附属屋をあわせて保存をはかる。

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの

⑥ 近畿地方最北端に位置する白亜の洋式灯台（近代／産業・交通・土木）

きょうが みさきとうだい

経ヶ岬灯台 1基、1棟

とうだい きゅうだいいちものおき
 灯台、旧第一物置

所在地：京都府 京 丹後市

所有者：国（海上保安庁）

京都府の日本海側最北端、若狭湾を東に臨む経ヶ岬に位置する洋式灯台。明治31年の建設で、設計監理は逓信省航路標識管理所による。高さは13.7メートル。日清戦争後の海運助成の拡大により、明治後期から灯台建設が進捗した、日本海沿岸に建



提供：文化庁

つ第一等レンズを備えた灯台。近畿地方における、日本海側航路の安全・発展に寄与した。重いレンズを水銀で浮かせて回転を容易にする水銀槽式回転装置導入の嚆矢であり、これによりレンズの光力増大と閃光方式の多様化が可能になった。旧第一物置等は当初の施設を残すものであり、あわせて保存を図る。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

⑦ 大型の住吉造の本殿が3棟並んだ迫力ある境内景観（近世以前／神社）

住吉神社 4棟

東本殿、中本殿、西本殿、拝殿

所在地：兵庫県加西市

所有者：宗教法人住吉神社

加西市北条町に位置する。養老元年（717）の鎮座と伝える式内社で、本殿は東本殿、中本殿、西本殿の3棟からなり、嘉永2（1849）から5年にかけて建立された。いずれも切妻造妻入の大型本殿で、その形態は住吉大社の住吉造との関連を彷彿させる。正面に装飾豊かな彫刻をつける等、幕末らしい意匠をみせる。本殿の前に長大な拝殿が建ち、文化5年（1808）の建立で、中央部の奥行を大きく造り、屋根を切り上げる独特な形式を持つ。大型の住吉造の本殿が3棟並立する構成は秀逸で、幕末の社殿として良質な境内環境を保つ。



提供：加西市教育委員会

○指定基準＝流派的または地方的特色において顕著なもの

⑧ 醤油発祥の地湯浅で最大規模の現役醸造施設群（近世以前／その他）

角長（加納家住宅）11棟

主屋、土蔵、穀蔵、麴室、仕込蔵、

醤油蔵、樽蔵、醤油蔵（北）、

醤油蔵（南）、角蔵、辰巳蔵

所在地：和歌山県有田郡湯浅町

所有者：個人

醸造業や交易等で栄えた、重要伝統的建造物群保存地区・湯浅町湯浅に位置する。角長は、地区を代表する醸造家の醤油醸造施設群及び住宅で、地区内最大規模の敷地を有する。敷地には、幕末から明治にかけて建設された建物が残り、醤油醸造の隆盛とともに大型化する施設の発展過程を今日に伝える。また、麴をつけた材料を発酵させる麴室、塩水を混ぜて醤油を仕込む仕込蔵、圧搾や火入れ等を行う醤油蔵等、伝統的な醤油醸造の生産過程を示す一連の施設がそのまま残り、かつ現役の醸造施設群として稼働していることに高い価値を見いだすことができる。



提供：湯浅町教育委員会

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの

⑨ 瀬戸大橋を望むブラントン最初期の洋式灯台 (近代／産業・交通・土木)

^{なべしまとうだい}
鍋島灯台 1基

所在地：香川県坂出市

所有者：国（海上保安庁）

瀬戸内海国立公園にあり、塩飽諸島に属する坂出市の鍋島に建つ石造の洋式灯台。明治6年の建設で高さは9.8メートル。兵庫の開港にあわせて瀬戸内海に建設された灯台の一つ。「日本の灯台の父」と呼ばれる英国人技師、リチャード・ヘンリー・ブラントンが慶應4年（18



提供：文化庁

68)の来日直後に、立地から建設まで主導した最初の灯台の一つで、我が国最初期の洋式灯台として歴史的な価値が高い。大阪・神戸に通じる瀬戸内海航路を行き交う船舶の安全を守り続けてきた我が国主要航路標識の一つ。なお、鍋島は本州四国連絡橋児島・坂出ルート（通称：瀬戸大橋）の中間点にある与島の南東に浮かび、敷地からは瀬戸大橋を仰ぎみることができる。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

〈個別解説凡例〉

番号 特 徴 (年代区分／種類別)

名 称 員 数

複数棟指定の場合の建造物の名称、土地* 等

所在地

所有者

(* 建造物と一体をなして価値を形成している土地を併せて指定するもの。)

〈国宝・重要文化財の指定件数〉

令和4年10月答申

(国 宝)

	種 類 別	現在指定数		新規指定		追加指定		合計	
		件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数
近世以前の分類	神社	42	77					42	77
	寺院	157	165	1	2			158	167
	城郭	9	17					9	17
	住宅	14	20					14	20
	民家	0	0					0	0
	その他	4	8					4	8
	小計	226	287	1	2	0	0	227	289
近代の分類	宗教	0	0					0	0
	住居	1	1					1	1
	学校	1	1					1	1
	文化施設	0	0					0	0
	官公庁舎	0	0					0	0
	商業・業務	0	0					0	0
	産業・交通・土木	1	3					1	3
	その他	0	0					0	0
小計	3	5	0	0	0	0	3	5	
合計		229	292	1	2	0	0	230	294

(重要文化財)

	種 類 別	現在指定数		新規指定		追加指定		合計	
		件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数
近世以前の分類	神社	577	1,269	1	4			578	1,273
	寺院	866	1,275					866	1,275
	城郭	53	235					53	235
	住宅	97	158					97	158
	民家	360	911					360	911
	その他	195	268	1	11			196	279
	小計	2,148	4,116	2	15	0	0	2,150	4,131
近代の分類	宗教	33	116					33	116
	住居	118	488	3	17			121	505
	学校	44	85					44	85
	文化施設	41	80					41	80
	官公庁舎	34	63					34	63
	商業・業務	28	46					28	46
	産業・交通・土木	97	325	4	5			101	330
	その他	5	17					5	17
小計	400	1,220	7	22	0	0	407	1,242	
合計		2,548	5,336	9	37	0	0	2,557	5,373

※重要文化財の数は、国宝の数を含む。